

2024年度事業計画

【 総務 】委員会 委員長【浅田 素之】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
c	定期表彰	インクルーシブな取り組みを含むセーリング活動の表彰実施	顕著な活動の認知度向上	表彰式の開催	2025年1月
g	ガバナンスコード対応	規程・基準の継続的見直し コンプライアンス委員会・利益相反管理委員会の実施	JSAFの運営、実施体制のルールに関する整備	ガバナンスコード、規程、基準等	通年
	レース等行事の公認・後援検討	JSAF公認・後援レースの検討実施（レースマネジメント委員会と共同）	公認・後援レースへの保険付保等、安全確保	公認・後援レースの開催	通年
h	コンプライアンス研修	会員、特に各団体リーダー向けの研修実施	会員全体のコンプライアンス意識向上	研修の開催	2025年2月

【 財政 】委員会 委員長【 松田 一隆 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
h, i	1. 適切な支払・立替手続きの遂行	・各専門委員会から日々上がってくる支払・発注の申請の内容確認。 ・事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの簡素化と改善。 ・源泉徴収関係の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を継続。	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	各種外部検査における指摘ゼロ	通年
	2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	・事務局のほか関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。 ・年間方針や重点施策に基づき各委員会が推進する事業計画の進捗に応じた円滑な予算執行に努める。 ・足元の収支状況についての情報提供を促進。	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評議会・理事会向け報告	通年
	3. 健全な財政基盤の確保	・JSAFとしての経営戦略に基づき、会費・寄付金・賛助金等の収入ソース拡大の検討がなされる中、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を進める。	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	管理ツール整備	通年
	4. 会計経理業務のガバナンス強化	・事務局における経理会計事務の体制強化を支援し、帳票類の整備を漸進させる。 ・公益財団法人に期待される会計・経理態勢の理解に努め、態勢整備を行う。 ・業務委託先の選定方法、業務委託における契約書締結要否の確認、支払申請に関して定めた、新たな業務フローを各委員会に定着させる		試算表、マニュアル類等の整備	通年

【 事業開発 】委員会 委員長【 平松 隆 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
h	JSAF SHOPの運営管理	JSAF SHOP受注品の発送管理、在庫管理。並びにSHOP画像の更新と、登録者へのタイムリーなメッセージの配信。	JSAFロゴ入りグッズの販売を通して、会員のJSAFへの帰属意識の向上と新規会員獲得の一助とする。	SHOPの年間売上アップ	年間
	JSAF SHOP販売商品の拡充	魅力あるJSAFロゴ入り商品の開発	限られたマーケット（JSAF会員＋セーリングファン）に対応した新規商品を随時販売し、売り上げのアップを図る。	年間売上目標¥3,000,000（2023年度実績見込み¥2,300,000）	年間
i	企業コラボ製品の制作	4 5 RPM社以外の新規コラボ先企業の開発	確実に利益の見込まれる提携企業開発により、安定した利益を確保する。	新規契約企業1社を目標とする。	年間

【 広報 】委員会 委員長【 森 融果 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
全	JSAF公式ウェブサイト運用	JSAFサーバー・公式ウェブサイトの保守管理	サーバー、ホームページの保守管理	トラブルがないこと	通年
	JSAF公式ウェブサイト改修	JSAF公式ウェブサイトの改修作業	会員・委員会の利便性向上等	サイトリニューアル	2024年4月
	紙版J-Sailing	紙版J-Sailing（イヤーブック）発刊	JSAFの活動全般に対する会員・スポンサーの理解獲得	発行物	2024年4月
	オンライン版J-Sailing	組織内広報のための新メディア立ち上げ	JSAFの活動全般に対する委員会・加盟団体の理解深化	発行物	2024年4月
k	バリ五輪対応	バリ五輪に向けた特別広報体制の構築	メディア露出増、選手への共感・応援の獲得	メディア露出・支援・応援の獲得	2024年5月～8月
全	JSAF公式SNS運用	JSAF公式SNSからの情報発信	プッシュ型情報発信、アウトリーチ	フォロワー数、インプレッション数	通年
	マスメディア対応	スポーツメディアのニュース掲載	アセット価値の高い露出	露出数	通年

【 国際 】委員会 委員長【 堀川 郁子 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
g	国際機関ポスト獲得・国際会議派遣	・ World Sailing のミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する ・ World SailingやASAFにおける日本のプレゼンス向上	・ 委員の派遣 ・ WSでの年次総会及び臨時会議等における議題の把握 ・ 上記議題におけるJSAFその他国内のステークホルダーのポジション確認・生成・発信		2024年11月
	スポーツ外交	セーリング競技の普及及び普及活動を通しての関係性構築	・ セーリング競技の普及及び普及活動を通しての関係性構築	・ 助成金の獲得 ・ コーチ派遣または、選手・コーチの招へいの実施	未定

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
b	サステナビリティキャンペーン（全日本大会へのサステナビリティ補助金事業）	全日本大会へのサステナビリティ補助金事業	・サステナビリティ活動の実践 ・SNS等での発信による外部への訴求 ・スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓	・SNSの発信数（シェア数、いいね数合計2,000件）	通年
	サステナビリティキャンペーン（上記以外の補助金事業）	サステナビリティに関する個人、団体の取組（学びや意識、行動変容、共創に向けたトライアル支援）への補助金事業	・サステナビリティへの意識・行動変容に向けた、他団体へのナレッジになるような取組を蓄積・発信するために、トライアル事業を支援	・助成数5件	通年
	サステナビリティイベント企画、参加	サステナビリティに関するイベント等での展示・講習	・海洋環境の現状の把握 ・サステナビリティの意識の普及、向上 ・広くセーラー以外の一般市民も巻き込みサステナビリティを切り口にセーリングの普及にも寄与。	・参加数5件	通年
	サステナビリティ啓蒙ツールの拡充	加盟団体等で活用できるような啓蒙ツールの整備・共有	・サステナビリティ活動の普及、支援、活性化	・加盟団体活用数30件（普及指導委員会事業と連携）	通年
	使い古したセールの有効活用（Workshop、バッグ製作販売）	使い古したセールによるエコバック制作Workshop	・環境意識の向上 ・脱炭素化に寄与 ・JSAFのブランド化 ・広く一般市民への普及	・ワークショップ実施数5件	通年
	サステナビリティインパクトに関する調査・検証	セーラー個人、大会のサステナビリティ貢献（プラスチック、CO2削減量）の調査、検証（外部機関連携含む）	・サステナビリティ貢献の評価、可視化 ・サステナビリティ活動の促進	・評価方式の策定 ・大会のインパクト評価トライアル	通年
	ナレッジの蓄積・展開	加盟団体のアンケートによる現状・課題分析、先進事例調査・展開	・サステナビリティへの加盟団体等の取組の普及、定着	・事例収集・発信数30件	通年
	サステナビリティ活動の情報発信	加盟団体の取り組み事例に関する映像制作、発信	・サステナビリティ活動の促進 ・スポンサーへの訴求、獲得	・映像ビュー1,000PV	通年
	アクティベーション協働先の発掘事業	アクティベーション協働先の調査、交渉	・スポンサーへの訴求、獲得 ・アクティベーションメニューの開発	・アクティベーションメニュー開発1件	通年
	スポンサー向け商品開発事業	サステナビリティに関するスポンサーメリットの開発	・スポンサーへの訴求、獲得	・スポンサーメリットの開発1件	通年
	セーリング用品リサイクル収集・提供トライアル	リサイクル品収集の公認大会でのトライアル実施	・サステナビリティ貢献 ・スポンサーへの訴求、獲得	・トライアル大会2大会	2024年10月頃

【 レディース 】委員会 委員長【 長田 美香子 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
	チャイルドルーム開設	未就学児をもつ選手・役員・指導者が安心してレースに参加できるようお子さんを預かることで支援する。		国体では観戦に訪れた保護者のお子さんも預かることにより、セーリングのファン拡大にも効果が望める	2024年5月
					2024年9月
					2024年9月～10月
	ハンザ体験試乗会	WS提唱のsteering the courseの一環としてインクルーシブなセーリングを目指して多会場でハンザ体験試乗会を開催する。		他水域での同様な活動と連携したり、拡大したりすることにより、全国的に通年に渡って継続的な活動としてインクルーシブなセーリングの発展に繋げることか望める	5 月
	第 6 回レディース委員会主催情報交換会	女性が、生涯セーリングに親しむことができるための具体的な方策を話し合うことを目的とし、各団体の意思疎通を図る。		・各団体において、女性会員の比率をアップ ・ハイブリッドで開催することで全国の水域から参加が可能 ・女性アスリートのネットワーク強化	1月に予定
	生理用品配布	女性を取り巻く生理の貧困を少しでも改善できるよう、協スポンサーを見つけ、その提供品を配布することを目的にメーカーに働きかける。		若い女性にチャイルドルームの活動を周知するとともに将来的には、女性のメディカルケアに関する相談窓口となる足がかりとする	通年
	マッチングシステム構築	主に大学を卒業する予定の学生がセーリングに継続して親しめるように、各県連や艇種別団体に紹介するシステムを確立する。		卒業する前の段階で、セーリングを継続できる場の見通しを持てる	通年
	女性リーダー・コーチの育成	女性の参加機会の拡充、女性のスポーツ環境作り、女性指導者・女性役員の育成を目指して、女性指導者育成、ジェンダー平等やインクルーシブスポーツ等の研修会、講演会の案内に努め、参加を促す。		女性活躍、女性参画を目指して能力向上を図る	通年
	女性レースへの支援	女性のためのレースをいろいろな側面からサポートする。		スキル向上やセーリングでの次のフェーズへの移行を支援することで女性活躍、女性参画を目指す	通年

【 アスリート 】委員会 委員長【 関 一人 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
e	オンラインでの講習会の実施	選手の競技力向上	トップ選手との交流による知見拡大	参加者50人	2024年12月
k	各種目、カテゴリーのトップ選手の意見を吸い上げ、組織力向上につなげる	セーリング界の意識向上、組織改革	アスリートファーストの円滑なレース		
f	ハンザなどを使ったトップ選手とのレース	子供から大人まで交えた交流レース実施協力	セーリング界の一体感醸成	来場者100人以上	2024年度中

【海 その愛基金 海洋環境グリーンプロジェクト推進】委員会 委員長【加山 雄三】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
a, e, f, g	事業1) ルールブック2025-2028の発行	・ World Sailingからの公開の後直ちに改定RRSを日本語訳する。 ・ 製本版：加盟団体・特別加盟団体からの一括購入の事前予約を受け付け2024年11月中に発送する。 ・ アプリ版：スマートフォン用アプリ版を開発し、2025年1月より販売開始する。	セーリング競技の根幹である競技規則を日本語訳して国内セーラーに提供	新ルール適用前に発行、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年
	事業2) ルール関連資料の翻訳・発行	競技規則であるWorld Sailing規程の一部、World Sailingの発行する試行規則や、競技規則の公式解釈であるケースブック、コールブックと規則42解釈、Q&Aとラピッドレスポンスコールなど、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	セーリング競技の根幹である競技規則と規則解釈を日本語訳して国内セーラーに提供	World sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年
g		World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	国内ジャッジ/アンパイアのレベルの維持・向上	World sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年
g	事業3) 国際ジャッジ・アンパイアの育成	・ 国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助。 ・ アジア諸国のIJ/IU候補者のJSAFが主催する国際大会への来日支援のため渡航費補助。 ・ 国内で開催される国際大会において、主催団体からJSAFによるジャッジ・アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して推薦。 ・ JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦者選定のためのIJ/IU候補推薦委員会の開催。 ・ JSAFがノミネートして選任されたWorld Sailingの委員でもある委員2名をWorld Sailing年次総会に派遣。	・ 日本人IJ/IUの継続的輩出によるJSAFの情報収集力の維持・向上、JSAFとしてのセーリング界への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・ 特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイア育成への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・ World Sailingの意思決定と活動に対するJSAFとしての貢献、JSAFの世界での地位向上	日本人IJ/IUの新規認定1人/2年＝現IJIU人数7名の維持（平均資格維持期間を平均4期16年間と仮定）	通年
	事業4) ナショナル・ジャッジ/アンパイア講習会の開催	新規A級ジャッジ認定講習会を国スポ開催予定地など2-3箇所で開催。	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定15名	未定
		新規アンパイア認定講習会の開催：海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して1-2回開催。	ナショナル・アンパイアの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定3名	未定
		A級ジャッジを対象にした資格更新講習会を全国10箇所程度で12月～3月に開催する（翌年度に1-2回の追加開催も計画する）。	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	更新者200名/207名	2024年12月～
		アンパイアを対象にした資格更新講習会（座学講習および海上実技）を、指定大会（7-8回。うち2024年度内は2-3回）において実施する。	ナショナル・アンパイアの養成、国内レースの質の維持・向上	更新者25名/26名	2024年12月～
	事業5) ナショナルB級ジャッジ認定	新規B級ジャッジ認定講習会・試験を実施する加盟団体・特別加盟団体に、試験問題と講習用補助資料を提供。改定RRSに対応した試験問題を作成し2025年1月から提供を開始する。	初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体の支援、国内レースの質の維持・向上	新規認定50名	通年
		改定RRSに合わせた、NJ-B更新講習会のための講習補助資料を作成し2025年1月から提供を開始する。		更新者350名/755名	2025年1月～

a,d	事業6) 競技規則の普及	セーリングのルール（ゲーム）を紹介するプロモーションビデオなどの作成・公開	愛好者（非会員含む）のセーリング・ルールへの興味の醸成	コンテンツの完成・公開	2025年1月
d,e,f		ルール検定制度の構築、試験問題の作成や受験システムの開発、運用開始	ルールの知識を習得したことが個人で確認できる仕組みを会員に提供	検定制度の完成・運用開始 受験者数100名	2024年12月～
e,f		指導者・選手向けルール講習会の開催	知識習得の場の提供	受講者数800名	2025年1月～
	事業7) 指導者育成支援	日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める事業を支援する。	普及指導委員会が進める指導者育成への貢献	対象講習会数50回	通年
a,e,r	事業8) アンパイア制レース普及支援	・加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりアンパイア制レースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象にアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。 ・アンパイア・クリニックの開催：選手・アンパイアを対象としたアンパイア制レースのクリニックを開催する。	世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え、将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、加盟団体・特別加盟団体とのアンパイア制レース推進のための中長期的なビジョンの共有と連携体制の構築を図る。	アンパイア制大会数増加1大会／4年	通年
	事業9) 外洋艇レース普及支援	ローカルクラブレースサポートキャラバン：外洋クラブ（非加盟団体）のクルーザーレースにおいて、標準レースをJSAFからの派遣資格者が助言協力して企画実施したレースを題材に講習、意見交換を行う。併せて、①登録セールナンバーのPR、②ローカルクラブレース現状調査、③JSAF活動の周知等も行う。RMC等関連委員会と連携し、1-2か所で試行実施。	・外洋クラブ（非加盟団体）を対象とした、フォーマルなレースの啓発、ルール意識向上（安全管理）、JSAFとの親和性醸成。 ・試行実証を踏まえた継続事業化	実施報告書	通年
g	事業10) カイトボード/ウィングfoil大会へのジャッジ派遣	カイトボード/ウィングfoil大会主催団体に働きかけ、ナショナル・ジャッジで構成するプロテスト委員会の任命を促し、ルール委員を大会ジャッジとして派遣する。	・カイトボード/ウィングfoilに対応できるジャッジスキルをJSAFが獲得する ・カイトボード/ウィングfoilに対応できるジャッジ養成に向けた計画の立案 ・大会主催団体を含むコミュニティへのフォーマルなレースの啓発	実施報告書	2024年9月

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
g	レースオフィサーセミナー	NROセミナー（認定学科講習・認定試験）の実施 学科試験通過者への実技認定審査の実施	「レースオフィシャルズの養成による国内大会の安全確保と質の維持・向上、レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開	受講者20人（1会場）	
		AROセミナー（認定講習・認定試験）の実施 学科試験通過者への実技認定審査の実施		受講者40人（2会場）	
		LROセミナー（認定講習）の実施（認定試験なし）		受講者60人（3会場）	
	レースマネジメントクリニック	NRO更新のための義務講習になっているレースマネジメントクリニックを実施する。 （JSAF RO規程に基づく措置）	クリニック（講習）の開催をとおして、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。	NRO 75人（約1/2）	2024年 5月～10月
	レースオフィサーアップデートセミナー （RO更新講習）	翻訳・教材スライド編集	ルール委員会と協働してルールの翻訳を行い、RO更新講習のスライドを作成する。	5人	9月～11月
		ルール改正に伴うNRO更新講習のインストラクターを養成し、講習内容の打合わせ実施する （全国のインストラクターの目合わせを行うために必要な措置）	JSAFが主催するRO更新セミナーを全国均質に行うために、教材・講習のポイントなどについてのインストラクター打合会を行う。	インストラクター講師2～3人 インストラクター 10人 更新事務担当者3人	11月
		ルール改正に伴うNRO更新講習を実施する。 （JSAF RO規程に基づく措置）	ルール改正の伴う最新の運営規則等を周知することをとおしてレースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。	NRO 保有者の95%	2024年12月～2025年1月
		ルール改正に伴うARO・LRO更新講習を実施する。 ARO,LROの更新講習は同時に行う。 （JSAF RO規程に基づく措置）		ARO,LROの85%	2025年1月～3月
g/q	国民スポーツ大会の支援・推進	レースマネジメント委員会メンバーを、国民スポーツ大会に派遣し、大会運営に協力する。	国民スポーツ大会を支援するために、レースマネジメントに秀でた中央派遣メンバーを派遣し、全国から参加したセーラーに質の高いレースを提供	佐賀国民スポーツ大会へ7名 滋賀プレ国民スポーツ大会へ7名	2024年9月 2024年10月
g	オフィシャルズの人材育成	オフィシャルズの人材育成のためのツールの作成	レース運営サブリメントとして、セーリングシグナルの作成販売	作成部数 300部	2024年12月
f/g/h/j	外洋合同委員会会議	外洋合同委員会会議への参加	外洋系ルール・計測・安全に関する情報を専門委員会で共有する	参加者40名	2024年2月
g/h/j	長距離外洋レース運営協力	外洋常任委員会主催レース・長距離外洋レースへの協力	管理水面で行われないレースに関する情報を整理し、次世代につなげる。2023年に検討された情報の精度を向上させる。	外洋常任委員会主催レースへの運営参加・その他長距離外洋レース主催者への情報提供	2024年4月～
g	国際大会へのレースオフィサーの派遣事業	国際大会へレースオフィサーを派遣する	IRO資格取得及び更新要件に国際大会での運営経験が求められるため、国際レースにレースオフィサーとして派遣し、経験を積んでもらう。	・2名を派遣したい （1名はIRO育成、1名は更新）	2024年8月～2025年3月
	IROクリニック	WSのIRO講師によるレースマネジメント講習会	・IRO資格取得に向けて、レースマネジメントの知識を得る ・4年に1度のルール改正を受けて運営規則の知識をアップデートする ・WSから派遣される講師との情報交換	参加者10名	2025年1月
	IROセミナー	IRO資格取得のための講習と認定試験	・IRO認定に必要な講義と試験を行い、現在日本に2名しかいないIROの増強を図る	8割の合格者	2025年2月
	国内国際レース調整の実施	・国内国際レース レースオフィサー派遣 ・国内国際レース レースマネジメントレベル維持	・ROレースマネジメント経験値向上		2024年5月
	公認・後援審査	公認・後援する大会開催に関しての審査	公認・後援等が規則に則り適正に行われているかを審査する。		2024/4-2025/3
h	全国レースマネジメント委員会	年2回の全国委員会の及び年3回の役員会議の開催	レースマネジメント委員会の事業実施に係る方策の協議・報告	レースマネジメント委員の参加	12月・3月及び随時
g	マークボット（自走式マークブイ）の運用	競技会においてマークボットを活用したレース運営	・マークボットを活用したレースの運営 ・運用方法の検討・策定		

【 ワンデザインクラス計測 】委員会 委員長【 中村 和哉 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
h,i	委員会基本活動	・定例委員会の開催、および関係会議への出席、HP掲載内容の管理 ・クラス協会との業務委託契約の締結 ・日本セーリング連盟公式計測員規程 改定案の整備 ・委員会活動継続のための人材発掘と育成	・上記事業の推進を管理し推進すると共に、委員会全体の課題に対して取り組む	遅滞なく業務を実施する	通年
g,i	規則管理	・IMマニュアルおよび計測に関連したWS文書を翻訳し提供することにより計測員の資質向上を目指す。 ・競技者を中心としたクリニックを開催する。 ・ERSの翻訳（修正、改定に伴う更新）	・WSから発行される計測関連の情報を提供する。 ・改訂された規則の翻訳を行い、公式計測員の更新を推進する。	遅滞なく情報提供を行う	通年
g	公式計測員管理	・各クラス協会の新規クラス公式計測員の育成事業支援 ・ERSの講習会用のテキストの見直しと作成 ・ERSの新規講習会及び更新講習会を実施する ・艇種別加盟団体において公式計測委員の設置されていないクラスを支援する	・公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成する ・現公式計測員のERS改定に伴う更新を推進する。	複数クラスでの講習会の実施 原則として現公式計測員全員の更新	通年
	IM養成支援	・IMセミナーの実施 ・IM推薦、IM候補者への指導・支援 ・WSの情報を翻訳し提供する ・国際レベルの計測技術を維持する	・IMの養成と計測技術の向上を支援する	IMの養成セミナーの参加人数 10人	2024年4月
i	IHC管理	・セールメーカーでのIHCの運用を監査する ・セールメーカーの要請に基づくIHCステッカーの手配	・IHC制度の管理と運用を行う	WSの求める品質の維持の達成	通年
g	国体計測	・国体等の大会計測の実施を主催団体と調整し実施の支援を行うとともに、計測員の派遣を行う。	・国体等における大会計測の精度を管理し公平公正な計測を行う	国体、リハーサル大会での大会計測の実施	2023年9-10月

【 医事・科学 】委員会 委員長【 栗原 茂勝 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
h	アンチ・ドーピング対策	ドーピング検査対応	NF-Repを派遣し検査に立ち会い、選手の権利を守るとともに円滑な実施に協力する	予定通りの検査の実施	競技会
	JSAF直接傘下のアンチ・ドーピング委員会設立	医事科学委員会内からJSAFの直接傘下にアンチ・ドーピング委員会を設立する	事業継続の為、今後の人材確保の目的	構成員の確保	可能な限り早期
	アンチ・ドーピング体制の維持	年度毎のJADAからの諸変更への対応	アンチ・ドーピング教育の維持	人材確保と適切な人員配置	適宜
	医事科学委員会の維持・強化	医事科学委員会の開催(ハイブリッド開催)	委員会内 各部会の充実	専門部会数・各人数	2回/年
	医事科学委員会トレーナー部会連絡会議	医事科学委員会トレーナー部会連絡会議	情報共有および連携強化によるトレーナーサポートの充実	トレーナー部会およびオリンピック強化委員会との情報会議	1回/月
	JSPOアスレティックトレーナー代表者連絡会議	セーリング連盟代表トレーナーとしての出席	JSPO加盟団体トレーナーと情報共有および連携におけるセーリングサポートの充実	各都道府県および中央競技団体より各代表参加1名（総数約120名）JSAFトレーナーへの情報共有	2024/12中旬頃
	JSPOスポーツドクター代表者会議	セーリング連盟代表スポーツドクターとして出席	JSPO加盟団体スポーツドクターと情報共有および連携におけるセーリングサポートの充実	各都道府県および中央競技団体より各代表参加1名(総数 120名)	1回/年 以上
i	アンチ・ドーピング教育	アンチ・ドーピングの教育講習会の開催	選手(未成年の場合は親)・監督・コーチ へのアンチ・ドーピングの教育	講習会 2～4回の開催(講習回数×参加人数)	通年
	公認医学・パラメディカル資格の推薦・取得の推進	公認スポーツドクター・公認スポーツデンティスト・公認スポーツファーマシー・公認スポーツ栄養士・公認アスレティックトレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦及び更新の手続き資格取得	委員の専門資格の取得	各資格推薦・取得人数	適宜
j	競技会における安全体制の確保	競技会における安全体制の指導・助言	医事科学委員の派遣・Line 等による助言	派遣回数・助言数	通年
m	オリンピック強化選手の疾病・外傷等の対応	オリンピック強化委員会との連携	疾病・外傷 等の対策(Line 等による助言を含む)	相談件数	通年
n	合宿・大会・HOPE事業のサポート	合宿・大会・HOPE事業におけるサポート(トレーナーサポート等)	医事科学委員会 各専門部会およびAD小委員会と連携し、円滑な選手サポートを行う	派遣回数・助言数	適宜

【 eSailing 】委員会 委員長【 尾形 依子 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
acf	Steering the Course (PR・普及事業)	Steering the Course期間にVRI紹介と体験会（レデース委員会と連携）	繋がりが続けられる環境の紹介	参加者50名	2024年5月
	eSailing練習会・体験会 (PR・普及事業)	オープンエントリー練習会	体験、練習機会の提供、ツールとしての紹介	参加者：1回最大19名 x 3レース	通年
fhi	全日本（Japan cap）開催・運営 (普及・強化事業)	全日本（Japan cap）開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2024年8月
	ネーションズカップ支援 (普及・強化事業)	ネーションズカップ支援・選手の活躍配信、紹介によるPRとネーションズカップにNIとしての手続	世界大会での活躍紹介と活動支援	ベスト 8 以上を目指す	2024年10月
acf	オンサイトイベント大会・体験会 (PR・普及事業)	2025年3月ポートショー等体験会実施	新たなセーリングファン層の拡大	1回10名程度の入替え制	2025年3月

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1：セーリング競技指導者育成	①指導者講習会プログラム策定/改善	指導者のスキル向上、現場での実践率向上	受講者アンケート評価	-
		①-1.コーチ3専門科目講習会プログラム改定			4-6月
		①-2.コーチ4専門科目講習会プログラム改定			6-12月
		①-3.コーチ更新講習会プログラム改定			4-5月
		②指導者講習会の開催実施	資格保有指導者の維持/拡大	修了者人数 & 次年度指導者資格保有数	-
		②-1.コーチ3専門科目講習会開催			6/28-30,8/30-9/1
		②-2.コーチ4専門科目講習会開催			12/20-22,R7.1/11-13
		②-3.コーチ更新講習会開催			5、8、12月
		③-1.コーチ2/3共通科目講習会へのコーチデベロッパー派遣	コーチデベロッパーのスキル向上	派遣人数 & 派遣回数	6-11月
		④既存指導者資格保有者の維持	資格保有指導者の維持/拡大	当年度指導者資格保有数	-
		④-1.資格更新対象者への更新講習受講期限案内			3月/9月/11月
		④-2.資格保有者リスト管理と会員管理システムへの反映	JSAF会員数の維持拡大	指導者資格保有者の 当年度会員数	4-3月
		④-3.資格保有者の会費支払依頼と登録確認			3-5月
		④-4.JOCコーチアカデミー受講者の募集と推薦			4-3月
		⑤コーチング活動支援のための情報提供	ジュニアユース層のセーラー & 指導者の スキル向上	掲載サイト参照数	-
		⑤-1.指導者向けコーチング教材の企画開発(初級レベル)			4-6月
		⑤-2.指導者向けコーチング教材の展開(初級レベル)			6-3月
	事業2：普及と安全情報の管理	⑥安全情報展開	事故数の低減	掲載サイト参照数	-
		⑥-1.事故/ヒアリハット情報の収集と展開			4-3月
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2：普及と安全情報の管理	⑥-2.レスキュー艇の操船ガイド等の開発（初級レベル）	事故数の低減	掲載サイト参照数	4-3月
		⑥-3.安全備品情報の収集展開			4-3月
		⑥-4.練習時の危機管理チェックリスト展開と普及			4-3月
		Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2：普及と安全情報の管理	⑦バッジテスト事業の推進	資格保有数の拡大
⑦-1.バッジテスト実施状況管理	4-3月				
⑦-2.バッジテスト認定者管理	4-3月				
⑦-3.バッジテスト検定者管理	4-6月				
⑦-4.バッジテストの改定案検討（初級レベル）	4-11月				
Ⅱ-f,h,i	事業3：組織体制強化および 活性化支援	⑧JSAF内人材育成による活性化	委員会メンバー参画意欲向上	参画意欲評価	-
⑧-1.委員会内人材育成と活性化		4-3月			
⑧-2.国際人養成アカデミーへの人材派遣		5-6月			
Ⅲ-p,q,r		⑧-3.委員会外への支援			4-3月

【 国民スポーツ大会 】委員会 委員長【 黒川 重男 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
d,e,f,g	国民スポーツ大会開催事業	・中央競技役員の派遣 ・現地主催団体との調整・協議 ・参加艇、運営艇の安全対策の推進 ・一般の認知・関心の向上に向けた「見える国スポ・ 見せる国スポ」推進 ・開催地でのセーリングスポーツの普及推進	・円滑な国スポ運営への開催地支援 ・一般市民等への認知度の向上 ・開催地におけるセーリング競技の普及	参加艇数 330艇 参加選手、監督数 550人 中央競技役員派遣 30人	2024年9月
d,e,f,g	国民スポーツ大会開催準備支援事業	・円滑な大会運営を目的とした国スポ委員会開催 ・開催自治体及び県連との調整・協議・指導 ・国スポ開催予定地の中央競技団体正規視察及び指導・助言 ・開催予定地の国スポ開催準備への支援 ・開催予定地の行政・セーリング関係者による国体研修会の開催	・円滑な国スポ開催準備への開催地支援 ・国スポ開催基準に沿った開催地の選定 ・国スポ運営方針に沿った大会品質の確保	国スポ委員会開催 2回（6月、1月） 国スポ研修会 1回（1月） 中央競技団体正規視察 1回（未定）	2024年4月～ 2025年3月
d,e,f,g	国民スポーツ大会開催関連事業	国民スポーツ大会において、観客にわかりやすく見せるためのセールに貼付する県名・県番号の販売斡旋	・「見える国スポ」、「見せる国スポ」の推進	県名シール販売 120枚 県番号シール販売 120枚	2024年 7月～9月

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
k/n	強化対象選手(NT-A/NT/シニア強化選手)/Paris2024代表選手の海外大会派遣	海外主要大会(Princess Sofia杯、ラストチャンスレガッタ、470欧州選手権他)への派遣	Paris2024での入賞、1種目以上のメダル獲得	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
	強化対象選手(NT-A/NT)/Paris2024代表選手に対する直前期強化合宿の実施	NT-A/NT/Paris2024代表の各チームが抱える調整課題にフォーカスしたチーム特化型の直前期強化合宿を実施		各大会の成績、合宿レポート	別紙のとおり
k/m/n	Paris2024本大会直前期の代表チームサポートの実施	代表選手確定後、マルセイユ現地において調整が行いやすい環境を整える。具体的には、練習艇・コーチポート置き場、宿泊場所の確保と現地気象データの入手等を実施する(詳細別紙ご参照)		遠征報告書	2024/7~8月
	Paris2024本大会での代表チームサポートの実施	テストイベントでの実績を基に、ルール/栄養/修理/トレーナー等のサポートメンバーをアサインし、本大会期間における各種サポートを実施する(詳細別紙ご参照)		遠征報告書	2024/7~8月
l/n/p	HOPE育成プログラムの計画・実施	HOPE選手を対象とした、セーリングスキル及び人間力の向上を目的としたHOPE育成プログラムを実施(詳細別紙ご参照)	次世代有力選手の継続的な輩出。LA2028を見据えSailing Youth World/Jr. Worldでの金メダル獲得を目標とし、2024年度はSailing Youth Worldにて複数種目の入賞を目標とする	各大会の成績、合宿レポート	1週間~10日/月
	強化対象選手(HOPE選手)の海外大会派遣	HOPE選手の海外主要大会(Sailing Youth World/Jr. World等)への派遣		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
	強化対象選手(HOPE選手)の個別合宿・大会での指導等実施	選手別の強化計画の策定と進捗状況の確認を都度実施し、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での個別指導を実施する		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
h/l/m/n	NTC・各強化拠点との連携強化	HOPE育成プログラムを始め、各種強化合宿の実施において、NTC及び各強化拠点との連携を深める	各自治体の補助金等を活用した各拠点の機材等の充実、各地域における競技普及・認知度向上への貢献、及び各地域の人材活用	合宿レポート、各種報道等	随時
	練習用(HOPE育成プログラム用)機材の充実	安価に競技艇やコーチポート等が調達可能となる機会を捉まえ、各強化拠点への調達斡旋や自前での調達検討を行い、海上練習機材の充実を図る	持続的かつ発展的な次世代育成・強化プログラムの遂行	使用(借入を含む)可能な競技艇・コーチポート艇	随時
	強化スタッフの充実	HOPE育成プログラムを通して外部コーチ、トレーナー、栄養、メンタル、ルール、修理等の各分野のスタッフについて、更なる拡充を行う		強化スタッフ(外部コーチ/トレーナー/管理栄養士・調理師/メンタルトレーナー/ルールスタッフ/修理スタッフ他)の期末(実働)人数	随時
	海上・陸上における各種数値の見える化・データアーカイブ化	競技特有の動作に着目した各種海上練習・フィジカル数値の測定と個人別目標設定の実施	科学的知見の積み上げ・分析による合理的な強化施策の実行	One TAP SPORTsへの登録データ内容 海上練習にフォーカスした各種トレーニングデバイス	随時
h/m/n	事務局機能の強化	事務局業務内容の再整理を実施、手薄な業務分野についての体制の再構築を行うとともに、属人化している業務の棚卸し・マニュアル化を推進(詳細別紙ご参照)	強靱なバックオフィス体制の構築	新規人材数、事務局業務に関する組織図・ジョブディスクリプション、業務マニュアル	随時
h/i	オリンピック強化コンテンツを活用したマネタイズ施策の立案・実行	JSAF強化スポンサーの獲得、既存スポンサーとのアクティベーション活動の実施、有望選手とスポンサー候補者とのマッチング機会の創出等	助成金や選手自前の活動資金のみに頼らない、資金的に多様性を持った強靱な強化体制の構築	スポンサー数、スポンサード内容、選手マッチング数、アクティベーションの活動報告他	随時
h/q/r	強化教材の共有、HOPE育成プログラムへの外部指導者受け入れ等による強化メソッドの外部還元	HOPE育成プログラムで実施する各種講習資料のウェブサイトでの公開や合宿への外部指導者の受入れを実施し、強化メソッドの横展開を図る	セーリング界全体、特に指導者層におけるレベルアップ・持続的発展への貢献	ウェブサイトアップされる教材数、HOPE育成プログラムに参加した外部指導者数	随時

【 ジュニア・ユースアカデミー 】委員会 委員長【 中村 公俊 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
a,f	ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー	テキストの発行	海やセーリングへの興味関心の拡大	対象者への配布数	通年
f,h,i		アカデミーコーチバンクの構築	人材の育成・活用	コーチ派遣に耐えうる登録者数	通年
d,f,j		アカデミーコーチの派遣	ノウハウの共有、生涯スポーツとしての価値の増強	全国15か所へのコーチ派遣	通年
f,h,j		コーチングセミナーの開催	コーチングノウハウや安全にかかわる情報の共有	全国から10名程度の指導者の参加	2024年6月

【 キールボート強化 】委員会 委員長【 久保田 悟 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
e	大学対抗&U25ヨットマッチレースの開催支援	大学対抗&U25ヨットマッチレース2025開催に向けた支援協力活動	ユース世代のキールボート競技者の維持拡大	参加選手60名、参加ボランティアスタッフ15名	2025年3月
	グローバルチームレースレガッタの日本開催に向けた企画調整	グローバルチームレースレガッタ2025の日本開催のための調査・調整・準備	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの競技活性化および選手強化	大会準備委員会の設立	2024年
o	FISU世界大学セーリング選手権へのJSAF代表チーム派遣	イタリア・ガルダ湖で開催予定のFISU世界大学セーリング選手権へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	ユース世代のキールボート競技力の向上	3位入賞	2024年6月
	グローバルチームレースレガッタへのJSAF代表チーム派遣	イタリア Reale YC主催のグローバルチームレースレガッタ2024へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの選手強化	3位入賞	2024年10月

【 国際大会等準備 】委員会 委員長【 中村 隆夫 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
d, g, k-r	各種委員会活動支援	オリンピック・パラリンピック強化準備資金の管理およびセーリング競技の強化・普及につながる各種委員会の活動への資金分配支援	セーリング競技（パラ・キールボートを含む）の強化・普及（広報を通じたプレゼンス向上、国際レースの運営経験の維持向上、を含む）	資金分配の実施	通年
g, k-r	国際大会運営資金マネジメント支援	国際大会（江ノ島オリンピックウィーク及び420アジア・オセアニア選手権）の助成金申請と運営資金マネジメント支援	国際規模レース参加及び運営の機会増加、ひいてはセーリングの強化普及	助成金申請の実施	通年
b, c, e	ENEOS事業	ドローンマークを活用したJSAFセーリング・シリーズ（インクルーシブラウンド・コンペティションラウンド）の実施、JSAF Club, Class of the yearの実施	インクルーシブなセーリング活動の活性化、若手の参加・育成を含めたクラブや団体の活性化、海洋環境に配慮した会場運営への貢献と省力化	ドローンマーク導入、セーリングシリーズの実施、表彰の実施	通年

【 外洋常任 】委員会 委員長【 中澤 信夫 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
a,e,h,r	セールナンバー普及拡大事業	外洋艇のセールナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する	セールナンバー取得艇数	
		セールナンバー普及拡大に合わせ、各地のヨットクラブや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する	全国各地でのセーリングの安全、ルール順守の強化をはかる	開催実績	
l,r	オフショアレース支援と世界選手権派遣事業	2032プリズベン五輪を目指し世界選手権に選手を派遣する。（国内選考レース開催を含む）	2032五輪を狙える選手の育成強化	派遣実績	
		JSAF共同主催の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	2032五輪や世界選手権、世界レベルの外洋レースで活躍できる選手を育成していく	開催実績	
		2032プリズベン五輪での外洋レース復活に向けて、World Sailingの外洋アドバイザーボードとの連絡強化を図る	World Sailingの2032プリズベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略づくりへの参加を図る	連絡調整状況	
		2032プリズベン五輪での外洋レース復活に向けて多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。	World Sailingの2032プリズベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と共同歩調をとる	全日本からクラブレースレベルまでのダブルハンドレース開催数	
		オフショアレースのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、促進、実施を進める。	世界レベルの選手育成のためのスキル向上		
e,f,h,j	加盟団体・特別加盟団体等との関係強化事業	外洋加盟団体長会議を年2回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	
		外洋常任委員会を開催する。（年7回程度）	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	
		外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。	レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績	
		ヨットクラブ、泊地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連絡・連携の強化を図る	連絡実績	
j	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	外洋艇の安全確保、安全情報の交換、救助関係組織との連携強化	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく		
		ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する	船舶検査、免許制度、通信等をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	
		レースでの安全確保の指導			
		サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績、	
		万が一のための主催者保険加入	レース主催の安全確保		
b	海洋環境保全普及事業	海その愛基金事業とコラボしての海洋環境保全、普及啓発を進める	海洋環境の状況を調べその保全、状況を子供達や市民に啓発していく	活動実績	

【 外洋計測 】委員会 委員長【 川合 紀行 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
g,i	レーティング証書発行	・IRC/ORCの計測の実施 ・提出された計測データの確認、必要に応じて問い合わせ・修正 ・IRCデータのRORCへの送付、証書データの受取・内容確認 ・ORC証書の作成・内容確認 ・証書の発送	レーティング証書の適正化	証書発行枚数IRC340枚、ORC55枚	通年
h	証書発行データ管理	・証書データの整理、データ・ストレージの管理 ・証書受付、管理表作成、請求書発行、再請求発行	データ資産の保全と利活用性の向上	再請求チェック3回/年	通年
g,i	レーティングシステム普及	・レーティングの適正な運用のため、IRC/ORCのセミナーの実施 ・合同居委員会会議を共同開催し、最新情報の周知を行う ・各レースのテクニカルコミッティへの協力等の支援	公式レーティングのレースの普及と質の向上	合同委員会での周知、TC派遣	通年
i	規則等の管理・運用	・HPの管理、適時更新 ・規則やマニュアル等各種資料の翻訳・作成	会員の最新情報へのアクセス向上	日本語版規則、2025年料金表、HP更新	通年
h	計測機器の管理	・重量計等の委員会所有の計測機器使用の受付管理、配送 ・定期的なキャリブレーションの実施	機器の精度維持	キャリブレーション1回/年	通年
g,h	計測技術の継承	・計測実技のレベルの維持・向上ための講習会の開催 ・計測実技のノウハウの資料化（画像や文書）	計測精度の向上	計測実技講習会の実施	2025年2～3月
h	国際会議への派遣	・ORCコンGRESへの委員の派遣 ・IRCコンGRESへの委員の派遣	国際標準への適応	会議報告書	2024年10月
h,i	外洋計測委員会会議	・外洋計測委員会会議の開催 ・レーティングに関する解釈・解説の通知文等の作成	国内での運用上の課題の解決	会議録、各通知文	通年

【 外洋安全 】委員会 委員長【 平出 篤志 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
事業1) 委員会基本活動					
h	委員会会議	委員会運営および以下事業の実施に関わる議論と方針・行動の策定を行う	OSRへの理解、安全規則の普及促進 事故防止、安全航行に対する意識の向上	議事録	通年
	WEBサイトの維持・管理	委員会WEBサイトにOSR改訂や安全週間およびその他OSRへの理解、安全規則の普及促進の関連諸事項を掲載し、維持・管理する	OSRへの理解、安全航行に対する意識の向上	WEBサイトコンテンツ・閲覧数	通年
事業2) 外洋特別規定（Offshore Special Regulations: OSR）普及					
h	1. OSR日本語翻訳版の発行と国内規定制定	・日本語翻訳版の発行 ・国内規定策定	OSRへの理解、安全規則の普及促進	OSR日本語翻訳版	1月・2月
j	2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施および講師派遣	OSRへの理解、安全規則の普及促進	受講者数	2月 要請に応じて
	3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説	OSRへの理解、安全規則の普及促進	SNSフォロワー数	通年
事業3) 安全航行啓蒙					
j	1.安全週間	安全週間を春と秋の2回/年設け、忘れがちな点検整備や乗員の訓練等の実施を呼びかける	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	4月、10月
	2.安全講習会への講師派遣	加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師を派遣	事故防止、安全航行に対する意識の向上	受講者数	要請に応じて
	3.安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ	国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかける	セーラーの安全性の向上や活動費用の低減	—	通年
	4.「全国海難防止強調運動」の実行委員	日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員を務める	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年
	5.事故報告書	外洋艇関係の事故数や事故の内容を集計・分析、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめ、必要に応じて委員会/理事会/SNS等で発信	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年
事業4) 外洋団体長会議・合同委員会					
h	外洋団体長会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信を団体長会議にて実施	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信	—	9月
	外洋合同委員会会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる規則のポイントや改定箇所の解説・共有・議論を合同会議にて実施	外洋レースの全国均一化とレース主催者（加盟団体）のスキル向上	—	2月

【 通信 】委員会 委員長【 坂口 城治 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
g, h, i, o	海岸局維持事業	既存のJSAF海岸局の今後の海岸局のあり方の提言を策定	海岸局の今後数年間の運営方針を策定	現状報告書および運営方針計画	通年
		VHF無線局免許状更新時の海岸局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手順を改善	無線局免許更新時の海岸局加入証更新の促進	海岸局加入証更新実績の比率向上	通年
g, o	オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースの通信環境およびレーストラッキング環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを運用する通信環境の知見の獲得	開催実績	通年
i, o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	外洋艇の安全確保、プレジャーボート系の無線局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の啓蒙	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	活動実績	通年
		ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望	通信環境をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	通年
		海上通信環境の最新情報の取得	メーカーや無線関係団体との関係を構築し、無線環境の進化に対応する準備を行う	活動実績	通年

【 アメリカズカップ 】委員会 委員長【 植松 眞 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

【 ジャパンカップ 】委員会 委員長【 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

【 パラセーリング 】委員会 委員長【 高間 信行 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
m	指導者育成講習会	パラセーリングの取り組み、インクルーシブの理念、国際大会の心構え、技術、ルール等を網羅したセミナーを各分野のトップコーチを迎えて学ぶ(JSCくじ助成)	全国各地域でインクルーシブ理念を理解し、安全性や技術を持った指導者を育成して普及につなげる	参加者20人	11月、12月 計2回
o	ブラインド全日本大会	視覚障がい者によるキールボートレースの全国大会(JSCくじ助成)	国際大会（2年に1回）に向けた技術力向上と普及	参加者40人	10月
n	西日本大会	インクルーシブによる西日本地域での大会(JSCくじ助成)	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	参加者20人	9月
n	全日本大会	インクルーシブセーリングにおける国内のランキング対応大会。次年度のパラセーリング強化選手の選考レースを兼ねる(JSCくじ助成)	国内普及および次年度強化選手選考レースの位置づけ	参加者60人	10月
n	強化選手西日本大会遠征費補助	24年度強化選手の大会出場のための遠征費補助(JPC助成)	遠征補助により、強化選手の継続的な大会参加を促すと共に、愛好家らの競技志向を高める	強化選手4名＋スタッフ1名	9月
n	強化選手全日本大会遠征費補助	24年度強化選手の大会出場のための遠征費補助(JPC助成)	遠征補助により、強化選手の継続的な大会参加を促すと共に、愛好家らの競技志向を高める	強化選手4名＋スタッフ1名	10月
n	強化選手レベルアップ合宿	24年度強化選手の大会に向けての集中技術力向上合宿(JPC助成)	国内大会で一定の成績を収めることで強化選手のレベルアップおよび愛好家らのモチベーション向上につなげる	強化選手4名＋スタッフ1名＋現地ボランティア5名	9月又は10月
n	海外遠征事前国内練習	海外大会（10月・英国）への派遣が決まった選手の事前練習費用(JPC助成)	国際大会で好成績を上げるにより、競技の普及および次年度のJPC助成金獲得を目指す	強化選手2名＋ボランティア	9月、10月 計8回
n	海外レース選手派遣	10月の世界インクルーシブ世界選手権への選手派遣費用（渡航費・宿泊費）(ゴールドウィン助成金)	選抜選手の国際大会出場を支援することで、競技の普及および強化成績につなげる	強化選手2名＋スタッフ1名 メダル獲得	10月末～11月初旬
m	海外PDP指導者派遣	24年度ワールドセーリング開催予定のPDPに指導者を派遣する (WSからの支給)	世界レベルでの指導者育成	指導者2名	未定
c	ハンザ艇キャラバン	安全なハンザ艇使って、初心者も子供も高齢者も障害者も一緒に同一プログラムでセーリング体験を実施(日本財団海プロ)	セーリングの普及、新規パラセーラーの発掘	参加者10～15人	計6回
d	ブラインドハンザ大会	安全なハンザ艇使って、シングル乗艇のブラインドセーラーによるレースを実施(ゴールドウィン助成金)	ブラインドセーリングの普及	参加者6人	11月
c	メディアデー開催	複数の報道機関等を招待し、パラ・インクルーシブセーリングを記者に体験してもらう(経営企画室関係)	報道機関の理解促進	参加者30名	未定
c	広報素材作成	パラ・インクルーシブセーリングの写真や動画を撮影(経営企画室関係)	パラ・インクルーシブセーリングの理解推進 寄付金・助成金募集	参加者5名	計4回
c	配布用媒体作成	パラ・インクルーシブセーリングの広報宣伝用資料作成(経営企画室関係)	パラ・インクルーシブセーリングの理解推進 寄付金・助成金募集	配布用媒体	随時